

# 平成30年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

## 1. 事務事業の概要

□ 完了 ■ 評価対象 ■ 行計対象

事務事業名 (中事業)	17907 小規模特認校通学スクールバス運行事業				
基本政策	03 ころ豊かな人が育ち、いきいきと活躍できるまち				
政策	01 人間力を培う学校教育				
施策	03 すべての子どもが学習できる教育機会の確保・充実				
実施形態	全部委託				
事業期間	単年度	平成25年度～			
要求区分	継続	予算区分	政策		
事業の実施を市に義務づける国の法令					
有無	なし				
法令名 条項					
予算科目	01-100103-120100				
部名	50 教育委員会	課名	03 学校教育課		
課長名	永井 寿幸	T E L	0795-22-3111	内線	535-526

## 2. 対象・目的・内容

事業概要	小規模特認校である双葉小学校の教育の活性化を図るため、校区外より小規模特認校に通学する児童に対し、通学のための便宜を供与し、市内の特色有る教育の推進と、該当地域の教育環境の維持に資する。
事業の対象 (誰・何を)	校区外より小規模特認校に通学する児童に対し、通学のための便宜となるスクールバスを運行する。
事業の目的 (どういう状態にするために)	小規模特認校制度を活用して、双葉小学校に通学する児童等に対して遠距離通学等における身体的な負担を軽減するために、スクールバス運行を行う。
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	市の公用車として車両を取得し、運行管理業務については委託する。登校時及び下校時に市内小学校4校区（西脇・重春・比延・黒田庄）を結ぶルートの基本として西脇市教育委員会が定めるルートを運行する。

## 3. 年度別事業費

(単位：千円)

	事業費	財源						
		国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源
平成27年度決算額	5,033	0	0	0	0	0	0	5,033
平成28年度決算額	3,082	0	0	0	0	0	0	3,082
平成29年度決算額	2,895	0	0	0	0	0	0	2,895
平成30年度予算額	2,895	0	0	0	0	0	0	2,895

## 4. 総コストの概算

(単位：千円)

平成29年度のこの事業に従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成29年度決算額(B)	総コスト (A) + (B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.10	0.10	0.20	1,016	2,895	3,911
事業費の主な用途					

# 平成30年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

## 5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指 標 名	スクールバス利用者数				単 位	人
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	目 標 値	1,760	13	13			
	実 績 値	8	13				
	経 費 (千 円)	3,082	2,895				
単 位 当 た り の コ ス ト	385.25	222.69					
活動 指標 ②	指 標 名					単 位	
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	目 標 値						
	実 績 値						
	経 費 (千 円)						
単 位 当 た り の コ ス ト							
成 果 指 標 ①	指 標 名					単 位	
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	目 標 値						
	実 績 値						
	経 費 (千 円)						
単 位 当 た り の コ ス ト							
成 果 指 標 ②	指 標 名					単 位	
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	目 標 値						
	実 績 値						
	経 費 (千 円)						
単 位 当 た り の コ ス ト							
実 績 ・ 成 果 等 の 説 明	小規模特認校制度を活用して校区外から通学する児童が増えたことにより、当初の目的であった複式学級が一部解消された。						

## 6. 評価

1 次 評 価	評 価 ポ イ ン ト	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	1	実施主体の妥当性	3
		直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	2	市民ニーズの把握	5
	事 業 の 総 合 評 価	継続実施					
説 明	平成29年度はスクールバスの定員13名のところ、利用希望者が13名であったため全員の利用が可能となったが、今後利用希望者の増加が見込まれている。しかし、今後新規にスクールバス等を購入し、利用者を増やす予定はない。平成31年度の小規模特認校入学希望者については、自力送迎での通学を条件に募集している。						
2 次 評 価	評 価 ポ イ ン ト	事業の優先度(緊急性)	2	事業の必要性	1	実施主体の妥当性	3
		直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	2	市民ニーズの把握	1
	事 業 の 総 合 評 価	抜本的見直し					
説 明	小規模特認校である双葉小学校へ校区外の児童が通学するため、無償でスクールバスを運行する事業である。児童一人当たり年間約22万円の経費がかかっているが、県内の他の小規模特認校では、保護者の責任と負担において通学できることを入学の条件としていることから、市民全体の理解が得られるかは疑問が残る。これまで入学した児童はスクールバスの利用を前提として申し込んでおり、直ちに廃止することは適切ではないが、平成33年度に実施予定の公共交通網再編と併せて抜本的な見直しを検討する必要がある。						